

誰かが立っている

市川 滂里

あれは何時間たった頃だろうか。

疲れていたからすぐに寝落ちしたはずなのに。

ふと眠りから覚めた。

人の気配を感じて。

誰かが立っている。

私のすぐそばで。

泥棒だったらいけないと思って、とりあえず寝たふりをして、携帯をにぎろうとした。

あれ、動かない。

手も足も首も。瞼さえも。

初めて感じる重力。

急に湧いて出る冷や汗。

急に早くなる心臓。

体中が焦っていた。

うごけうごけうごけ

ずっと唱えた呪文。

どく どく どく

何度唱えても動くのは心臓だけ。

なんでなんでなんで

覚えのない拷問にかけられた。